

自己評価報告書(最終報告)

コース等名	生活・健康系コース(技術・工業・情報)	記載責任者	宮下 晃一
-------	---------------------	-------	-------

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

70%以上の高い就職率を実現するために、次の方策を実施する。
①教員による学生への個別の就職支援に関わる指導を実施する。
②教員採用試験対策として模擬授業の練習や模擬面接を実施する。
③教員としての資質を向上させるために、卒業・修了見込み学生に対して日本産業技術教育学会主催「技術科教員指導能力認定試験」の受験を勧める。

2. 点検・評価

教員就職率の向上を目指して次の取り組みを行った。
①教員による学生への個別の就職支援に関わる指導を実施した。
②教員採用試験対策として模擬授業の練習や模擬面接を実施した。
③教員としての資質を向上させるために、卒業・修了見込み学生に対して日本産業技術教育学会主催「技術科教員指導能力認定試験」の受験を勧めた。
その結果、平成25年度の当コース卒業生は全員が教員採用試験に正規合格している。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①大学院生の学部授業の履修者数が増加しているため、安全性の確保と教育効果を高めるように施設・設備などの要望を行う。
- ②卒業研究・修士研究に取り組む学生に対して、主指導教員と副指導教員による教育・就職支援体制を維持する。

2. 点検・評価

- ①大学院生の学部授業の履修者数が増加しているため、安全性の確保と教育効果を高めるように施設・設備などの要望「平成27年度特別経費(プロジェクト分)概算要求事項の概要」をコースから提出した。
- ②卒業研究・修士研究に取り組む学生に対して、主指導教員と副指導教員による教育・就職支援体制を維持し、きめ細かい教育研究指導を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①教員各人の研究環境の改善に努め、必要に応じて教員相互の研究交流を促進する。

2. 点検・評価

- ①については、大学における研究活動や各種学会活動などを通して、教員相互の研究に関する交流が進化している。しかし、恒常的に実験室等の研究設備が不足しており、研究活動のために会議室や図書資料室等の臨時使用が続いている。そこで総合学生支援棟の完成に伴う研究スペースの配分を要望している。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①学生の定員確保、就職支援など、大学の重要課題の解決に貢献する。

2. 点検・評価

①については、大学院の定員確保のためにコース独自のパンフレット作成、大学等訪問、入試方法の継続的な見直しなどを行った結果、平成26年度入学の大学院生数は技術・工業・情報コース7名となり、大学の重要課題の解決に貢献した。就職支援では、コースでの協議をもとに、各教員がゼミ・講義等を通して教員採用試験対策を意識した教育を実施した。その結果、学部生では全ての卒業生が教員採用試験に正規合格した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校における教育実習の支援や共同研究等を推進し、連携協力関係を維持する。
- ②学校教員等を対象とする研修を継続する。
- ③コースに所属する留学生と日本人学生の交流を促進する。

2. 点検・評価

- ①については、本コース教員が教育実習中に附属学校や教育実習先を訪問し、指導助言を行った。また、附属中学校が開催する各種の研究会には多くの教員が参加し、附属中学校との共同研究や授業支援を実施した。
- ②については、教員免許状更新講習、公開講座、産業・情報技術等指導者養成研修等を実施した。
- ③については、本コース在籍中の大学院生5名の留学生との積極的な国際交流を推進した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

副学長(入試企画担当)、兵庫教育大学連合大学院の副研究科長、情報基盤センター所長、大学連携eラーニング支援センター四国鳴門教育大学分室長を輩出し、大学全体の運営に貢献した。
情報基盤センター兼務の本コース教員を中心として情報基盤センターの運営に貢献した。